

平成20年度に向けて！ ～新年度の海洋部の予算と取り組み～



高知市丸の内
高知県海洋部
発行人 坂東 隆志
編集人 海洋企画課
定 価 無 料

海洋部平成20年度一般会計当初予算額

課室名	平成20年度 当初予算額	平成19年度 当初予算額	増 減
海洋政策課	400,738	516,974	▲ 116,236
漁業管理課	389,026	376,481	▲ 12,545
水産振興課	525,171	564,374	▲ 39,203
漁港漁場課	3,261,815	3,677,934	▲ 416,119
計	4,576,750	5,135,763	▲ 559,013

■厳しい予算
 厳しい県の財政状況により、海洋部の予算額も過去10年で約1/3にまで減少しており、来年度予算は前年度比5億円超の減額となっております。これは、例年1、2基ある黒潮牧場の更新がないことや、

平成19年度の海洋部は、最重要課題である県一漁協合併に取り組み、この4月1日に四国で最大規模となる高知県漁協の発足にこぎ着けました。また、流通販売では、各地域での漁業者の取り組みを支援し、いくつかの成功事例も出てきています。
 この方向性を軸に、新たに迎える平成20年度からは、高知県漁協がしっかりと経営ができるよう支援するとともに、高知県漁協が魚価の向上を目指し新たに取り組み販売事業も全面的に支援していきます。
 今回は、これら海洋部の来年度の予算や、主な取り組みなどのポイントについてご紹介いたします。

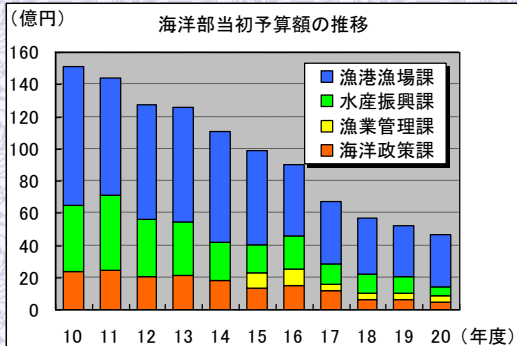
高知県漁業信用基金協会の貸付金2億円を廃止したことが主な理由です。
 一方、県一漁協への支援の経費や早期概成に向けた漁港整備費は増加しており、黒潮牧場等の特殊要因を除けば実質的には前年度の予算額を維持しています。

■H20予算のポイント
 ●高知県漁協への支援
 平成20年度の海洋部の最重要課題は、新たに発足する高知県漁協をしっかりと支えることです。まず財務を改善し、漁業者の最大のニーズである魚価の向上に取り組み体制を整えることが最も求められています。

●燃油高騰対策
 最近の燃油高騰への緊急対策として、燃油費等の運転資金のための無利子に近い制度資金を創設するとともに、省エネに効果のある漁船の船底清掃に対する補助制度も創設します。

●取組み体制
 重要施策を強力に推進するため、海洋企画課と漁業経営課が統合され「海洋政策課」となります。また、この海洋政策課内に「県一漁協支援チーム」を設置し、財務体質の改善や販売の強化、あるいは燃油供給体制の見直しなど、総合的に高知県漁協を支援していきます。

●試金石
 漁業者からの切実な要望である魚価の向上を実現するためには、県一漁協合併は避けては通れない課題です。漁業者、漁協、行政が一体となって本県漁業の再生に取り組んでいきます。



漁協合併を推進しましょう

●購買は漁協を利用しましょう
 ●預金、公共料金は信漁連へ

流通改善・販売促進はお任せを！

水産物を売り出したい、一次加工をしたいなどの相談があれば、まずはお電話下さい。選りすぐりのスタッフを直ちに急行させ、きっとあなたのお役に立ちます！

- 室戸漁業指導所 TEL 0887-22-0645
- 中央漁業指導所 TEL 088-856-1164
- 土佐清水漁業指導所 TEL 0880-82-0569
- 宿毛漁業指導所 TEL 0880-67-0767



●その他主要項目
 流通販売の強化では、生産者グループ等の流通販売への取り組みに対する補助事業を発展的に解消して、総合支援補助金に統合し、前年度の3倍近い予算としています。
 漁業後継者の確保では、従来どおり、新規就業者の生活技術修得を支援するための

さらに、県一漁協構想を早期に実現するため、合併を否決した漁協との人事交流や業務提携についても支援することとしています。
 新たに取組む販売事業への支援としては、11月から営業を開始する直販店舗(高知市横浜)の整備や出荷体制構築、流通チャンネルの構築など、ハード、ソフト両面から支援していきます。

【編集後記】
 4月の人事異動で現担当を離れることになり、異動先は数m南で土佐湾までは届かず！長い間かつお通信をご購読頂き誠にありがとうございました。発行の継続は未定ですが、今後とも本県の漁業の発展にご理解、ご協力いただくとともに、土佐の魚をご愛顧頂きますようお願いいたします。

【コラム】
「新年度」
 社会、経済システムが大きく変革する中、行政はもとより、漁業界にも常に改革が求められる。明日からは高知県漁協が発足し、海洋部も新たな体制でスタートするが、「種の起源」を著したチャールズ・ダーウィンの言葉を戒めたい。「最も強い者が生き残るのではない、最も賢い者が残るのではない、唯一生き残るのは変化する者である。」